教育相談に関する取組状況について

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

中学校 戸田型校内サポートルーム「きゃんばすルーム」

1

多様な学びの場の拡充

不登校を支援する

児童生徒の心理的安全性を高め、学びに向かえる場所の選択肢を拡充

多様な学びの場の有機的連携

【趣旨】誰一人取り残されない教育の実現に向け、学校生活上、不安や困難を感じている生徒や不登校傾向児童への多様な居場所の確保による早期対応・早期支援

R6.10　全中学校に設置

きゃんばすルーム



生徒の学習支援・生活支援等

- 自分のペースで学習
- 個別ブースで学習
- オンラインで授業に参加
- 教室との併用
- クールダウンに利用

NEW（R7.6～）

各校に１名「きゃんばすルーム」サポーターを配置

株式会社学研エル・スタッフィングに業務委託
（教育支援センター「すてっぷ」も委託）



- 学習支援
- 受験に関する指導
- オンラインでの授業参加の補助
- クールダウン中の見守り・安全確保
- 担任、SC、養護教諭、管理職等との連携

【活用例】

①何らかの理由により教室に行きづらさを感じている生徒や生活や活動の場

②学習に不安を感じている生徒の支援の場

③一時的にクールダウンが必要となった生徒の居場所

連携した生徒支援

さわやか相談室



さわやか相談員・ボランティア相談員による教育相談の実施
SC・SSW等による支援







令和７年度　きゃんばすルームの状況





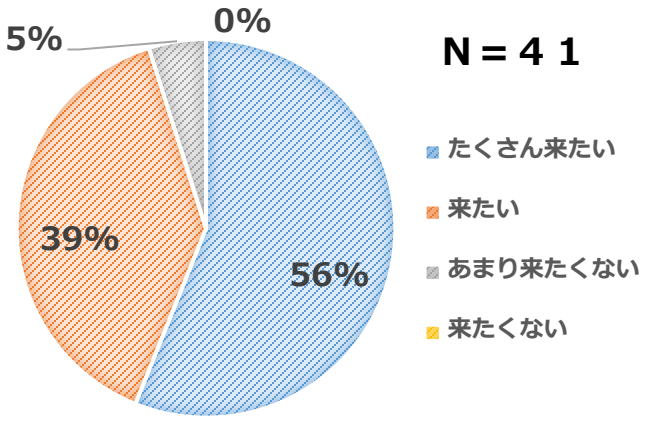
令和７年度より「きゃんばすルーム」運営業務委託により、「きゃんばすルームサポーター」を配置

月に１回～数回程度や数ヶ月に１回、必要な時だけ利用する生徒から、毎日通う生徒まで様々な状況の生徒がいる状況である。

・個別学習以外にも、きゃんばすルームからオンラインで教室の授業に参加したり、集団で学習に取り組む生徒も見られる。
・教室や「いっぽ」「room-K」「すてっぷ」などと併用している生徒もいる。
・きゃんばすルームからオンラインで授業参加する生徒もいる。
・利用生徒の多くが、「きゃんばすルーム」と「さわやか相談室」を行き来しながら、学習する時間やきゃんばすルームサポーターやさわやか相談員等とは話したりする時間を使い分けながら生活している。

令和７年度きゃんばすルームの効果検証

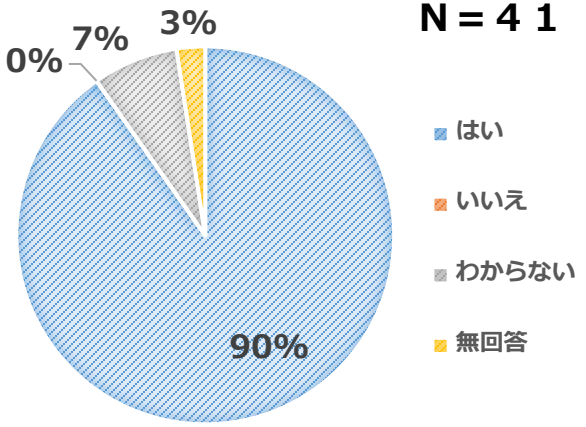
ぱれっとラボ 生徒アンケートより（R7.12）
「これからも『きゃんばすルーム』に来たいか」について



【主な理由】
（たくさん来たい・来たい）
・勉強も教えてくれるから　・話をたくさん聞いてくれるから。
・居心地がいいから。　・自分のペースでいられるから。
（あまり来たくない・来たくない）
・少しずつ生活を戻したいから。　・教室で授業が受けたいから。

「きゃんばすルーム」利用生徒の**９５％**が
「たくさん来たい」「たまに来たい」と回答。
なお、「来たくない」と回答した生徒についても、
改善を提案する前向きな回答が見られた。

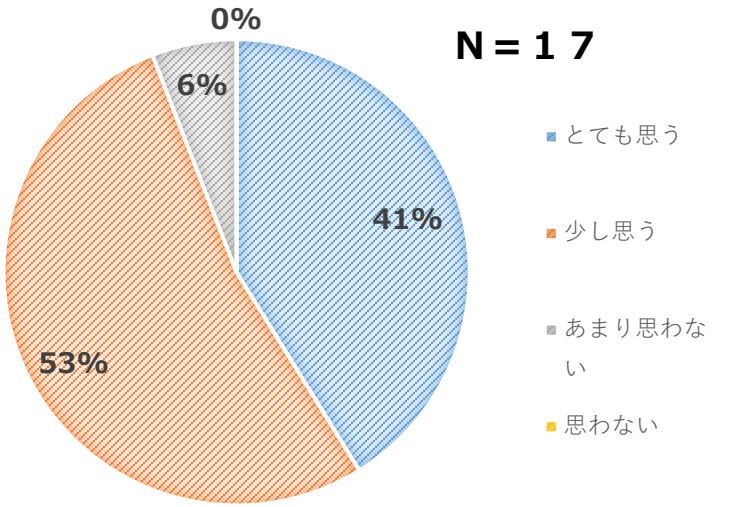
ぱれっとラボ 生徒アンケートより（R7.12）
「きゃんばすルームでは誰かに相談したり、わからないことを教えてもらったりすることができる」について



「きゃんばすルーム」利用生徒の**９０％**が
「きゃんばすルームでは誰かに相談したり、わからないことを教えてもらったりすることができる」と回答。

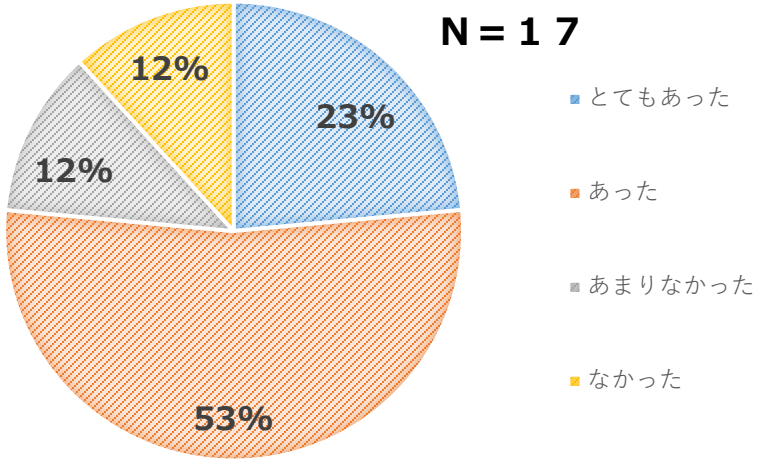
令和７年度きゃんばすルームの効果検証

ぱれっとラボ 保護者アンケートより（R7.12）
「これからも『きゃんばすルーム』」に通わせたいか」について



「きゃんばすルーム」利用生徒の保護者の**９４％**が
今後も「きゃんばすルーム」に通わせることに肯定的に回答。
また、「精神的な安定」「居場所の確保」「学習支援」
へのニーズが高いことが結果として見られた。

ぱれっとラボ 保護者アンケートより（R7.12）
「『きゃんばすルーム』利用によって子供に変化があったかについて



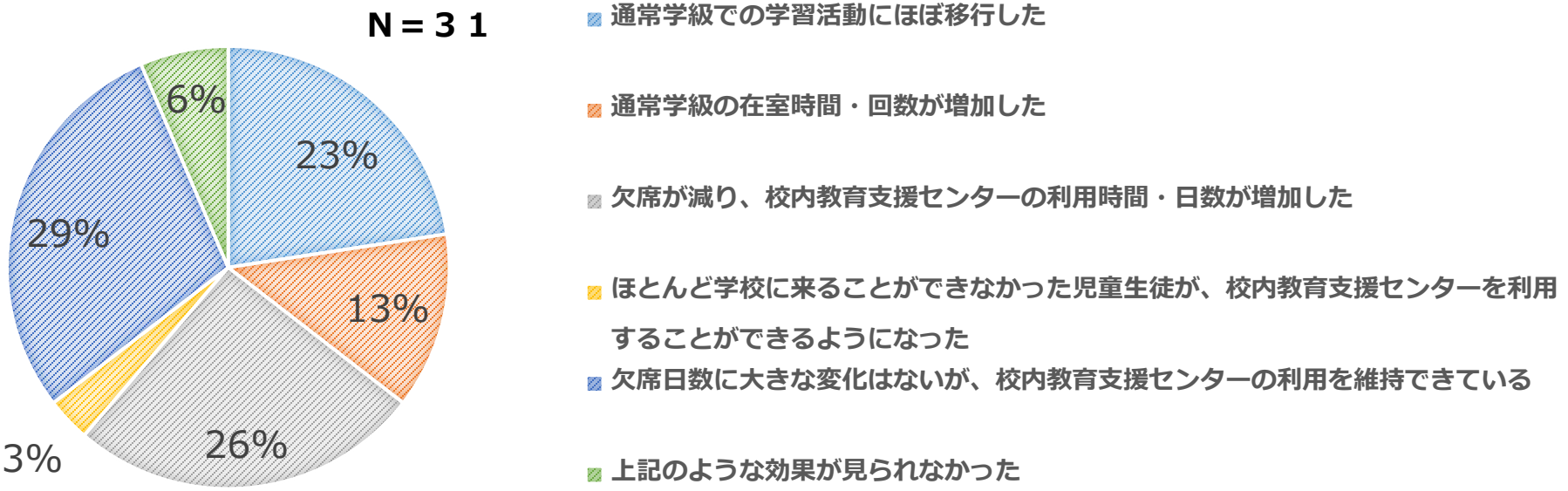
【どんな変化があったか】※自由記述欄より

- 同じ学年のきゃんばすルームを利用するお友達が出来て楽しそうに登校出来るようになった。
- 相談員の先生が話をよく聞いてくださるようで、話をする場があること。登校時から開いてるので行く場所に迷いはなくなりました。入学当初は相談室で話せる先生の出勤時間が登校時より遅い為嫌がることもありましたが、きゃんばすルームができてからはなくなりました。
- 学校に行くのに泣いて嫌がる日や学校の話は、あまりしなかったが学校の話をしてくれるようになった。
- 学校で体調不良になることが少なくなった。
- 学校に行けるようになった。
- 精神的に少し落ち着きました。
- 明るくなった。
- 元気になった。

「きゃんばすルーム」利用生徒の保護者の**７６％**が
今後も「きゃんばすルーム」に通わせることに肯定的に回答。
また、「精神的な安定」「居場所の確保」「学習支援」
へのニーズが高いことが結果として見られた。

きゃんばすルーム利用生徒の変化

令和６年度「きゃんばすルーム」利用生徒の変化について
【R7.7実施】校内教育支援センターの設置促進事業の活用状況調査（文科省）より



中学校３年生の利用生徒（全中学校合計９名）については、**全員が全日制または通信制の高等学校に進路決定**

令和７年度については、「きゃんばすルームサポーター」配置に伴い、各校さらに活用が進んでおり、下記のような変化が見られている。

・不登校状態にあった生徒がきゃんばすルームに登校するようになった。
・きゃんばすルームを利用しながら、教室の授業にも参加できるようになった。
・きゃんばすルームで学習のやり方を学んだことをきっかけに教室で過ごせるようになった。
・きゃんばすルームで生活リズムが整い、授業や学校行事に出られるようになった。
・きゃんばすルームで先輩や同級生と仲良くなり、一緒に学習したり、生活できるようになった。

令和7年度　戸田市教育相談充実構想

小学校スクールカウンセラー
県費 月１日程度
市費 全12校週２回配置　年90回
○児童、保護者等の相談　○教室訪問
○教職員への助言　○教職員研修の実施
○ケース会議等への参加　○発達検査の実施

中学校スクールカウンセラー
県費3校週1回、3校隔週配置
市費6名、年４０回配置
○中学校区の児童生徒、保護者等の相談
○関係機関との連携　○教職員への助言

ピアサポーター
大学生ボランティア

スクールソーシャルワーカー
各中学校週1日配置 ※県費2名・市費２名
中学校２校は週２日配置
○不登校への対応　○児童生徒虐待への対応
○家庭訪問対応　○福祉との連携

さわやか相談員・ボランティア相談員
さわやか相談員6名　週5日
ボランティア相談員12名　１校２３０日
○中学校区の児童生徒、保護者等との相談
○教育センター・SC・SSWとの連携

各小・中学校

「切れ目のない支援」「きめ細やかな支援」
一人一人の多様なニーズに応じた教育相談
【重点事項】
①専門性のある人材の安定的な確保
②気軽に相談できる体制づくり
③不登校児童生徒支援の充実

教育心理専門員
平日及び土日に配置 週4~5日 年200日程度
○児童生徒、保護者等の相談　○早期就学相談
○発達検査の実施　○5歳児発達健診での相談

「シェア型」オンライン教育支援センター
認定NPO法人カタリバと連携
○オンライン不登校支援プログラム
○オンライン教育相談・学習支援

教育相談コーディネーター
平成30年度から配置　週４回程度
令和6年度より2名体制
学校及び各関係機関との相談機能の連携・強化
○教育総合データベースの分析による不登校支援
○総合的な教育相談体制の構築
○すてっぷとの連携・相談員の支援

SNS教育相談
専門カウンセラー が対応
○SNS相談　17時から21時を想定
（４月開始）R６より期間を延長



拡充

戸田型校内サポートルーム支援
小学校「ぱれっとルーム」に１名配置　年１６９日
中学校「きゃんばすルーム」に1名配置(予定)
○不登校対策支援　○ぱれっとルーム運営（小）
○校内巡回　○学習補助　○生徒指導対応

日本語指導員
５名配置　週1~3日
○市内小・中学校への日本語の訪問指導及びサポート
○日本語指導が必要な児童生徒等へのアセスメント
○日本語指導が必要な児童生徒及び保護者との相談
※別途日本語指導教員７校配置（予定）

生徒支援教室 「いっぽ」
月~金　10：00~15：00
○埼玉県教育委員会設置
○個別学習（いっぽのスタッフが支援）
○体験活動（栽培活動・高校生等との交流等）
○戸田市教育委員会との連携事業

教育支援センター「すてっぷ」
戸田市立教育センター内：「すてっぷ」
西部福祉センター内　：「西すてっぷ」
平日 9:30~15：00　年１９０日程度
○戸田市不登校対策支援の拠点
○不登校児童生徒に適した支援プログラムの実施
○不登校児童生徒の保護者支援
○アウトリーチ型支援の研究と実践

心の教育アドバイザー
平成30年度から１名配置　週２回程度
○小・中学校、幼稚園・保育園と連携・訪問・相談
○福祉、医療等と幅広く連携した早期就学相談
○一人一人の教育的ニーズに応じた就学相談